

**立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）**  
**個人研究費**  
**2008年度研究成果報告書**

研究代表者	所属・職名	氏名
	社会学部教授	黄 盛彬 印
研究課題	対中国・中国人認識の日韓比較 - 他者認識をめぐる政治言説への地政学的アプローチ	
研究期間	2008年度	
研究経費	500,000円	

**研究の概要（200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと）**

本研究では、日本と韓国における対中国・中国人認識（あるいは、イメージ、表象）に注目し、比較分析を試みた。まず、日本と韓国における中国・中国人への認識、イメージ、表象に関する先行研究および調査を収集し、その時系列な把握を試みながら、地政学的状況への認識と「三国間」レベルの相関、影響関係を把握した。また、両国における新聞、放送、映画における「中国および中国人表象」を収集し、一部については、言説分析の方法を用いて、分析を行った。とりわけ、今年度は、2008年の北京オリンピックなどのメディア・イベントにも注目し、その時期に合わせた新聞・放送などの論調分析およびメディア表象の分析研究も展開した。

**キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）**

[他者認識] [ナショナル・アイデンティティ] [東アジア]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究では、メディア研究のアプローチから、内容分析に始まり、文化やスポーツをめぐる言説・表象分析の手法を用いながら、日韓（あるいは、日本と朝鮮半島）における中国認識に、とりわけ「自画像と他者認識」という問題意識から注目した。

研究者はこれまで、日韓（あるいは、日本と朝鮮半島）における相互認識、また「自画像と他者認識」の関心に注目してきたが、本研究では、日韓における中国認識を加えることによって、複数の他者認識の関係性の解明を試みた。先行研究のレビューとして、日韓に加えて、欧米の歴史研究および地域研究、社会学、文化研究などの多様な文献のレビューを行い、理論化を試みた。他国（民）への認識が、両者関係のみに左右されず、周辺の様々な他者との関係により影響されることや、当事者及び重要な他者を含む地域の情勢等（コンテクスト）についての認識、つまり地政学的世界認識にも影響されるといった先行研究の知見を確認しつつ、この地域における特殊な事情などをも考慮に入れながら、今後も考察を続ける必要がある。

また、日本、韓国における周辺国（民）認識・イメージについての調査結果や研究を収集し、検討した。時系列な分析に加え、多者間における他者認識の方程式のような関係の特徴を明らかにすることを目的として、研究に取り組んだ。

事例分析としては、2008年5月に起きた「四川大地震」関連報道や2008年の北京オリンピック関連の報道およびメディア言説を収集し、分析を行った。研究の成果としては、主に評論として発表した。今後、学術論文として発展させていく必要がある。

そのほかに、積極的に国際発信を目指した。2008年7月には、京都で開かれた国際スポーツ社会学会大会で、「Hiroshima and Politics of National Memories of the Bomb and Peace: a Case Study of 1994 Hiroshima Asian Games」というタイトルで発表を行ったが、本研究課題遂行中に得られた「複数の他者認識の相関・影響関係および地政学的認識との関係」という問題意識から事例研究として構想したものであった。また、10月には、中国北京で開かれた国際学会に招聘され、「中国イメージと日本の自画像」というタイトルの報告を行った。この発表論文は、中国伝播大学の英文ジャーナルに掲載される予定である。そのほか、2009年1月にマレーシアで開催された国際学会でも、同様の問題関心からの事例研究を報告した。

研究成果の概要 (つづき)

また、本研究では、受け手分析として、日本と韓国の両方で、メディアでの「周辺国(人)表象」がいかに関心されているのかについての「解読過程」の調査(=「意識調査」)も試みた。韓国では、ソウルと釜山の大学生グループを実験グループとして組織し、聞き取り調査を行った。また、分析対象として、近年、普及が加速され、「もう一つの言論(alternative media)」として注目を集めているインターネットの掲示板などの言説も分析資料として収集し、分析に取り組んだ。